

# Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創 立：1980年(昭和55年)1月10日  
会 長：松波 恒彦  
幹 事：平野 好道  
クラブ委員長：犬飼 達郎  
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号  
T E L：052-211-3803  
F A X：052-211-2623  
M A I L：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/



## 第1570回例会

～職業奉仕・米山月間～  
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2012年10月11日(木) 晴 第14回

司 会：堀慎治会場委員長  
齊 唱：「君が代」奉仕の理想  
ゲ ス ト：2010-11年度国際ロータリー・研修リーダー  
中村靖治さん  
ビ ジ タ ー：カムループスノースRC アラン・ドッドさん

### 会長挨拶

松波恒彦会長

今季節を旧暦で云うと『寒露』といいます。寒露とは、露が冷たく感じられてくる頃のことです。空気が澄み、夜空にさえざえと月が明るむ季節です。ちょうど今日あたりは『初候(はつこう)、鴻雁来る(こうがんきたる)』といいます。雁が北から渡ってくる頃。その年初めて訪れる雁を、初雁と言います。日本には春夏秋冬の四季があり、24等分した二十四節気は立春からはじまり大寒でしめくられて1年とします。そして、それを72等分した七十二候という、こまやかな季節の移りがあります。



人は昔から、太陽や月をめぐるリズムを、季節や月日などを知る手がかりにしてきました。地球が太陽の周りを1周する時間の長さを1年とするのが太陽暦です。月が新月から次の新月になるまでを1ヶ月とするのが、太陰暦です。旧暦とは、太陽暦と太陰暦を組み合わせた太陰太陽暦のことで、明治5年(1872年)に「改暦の詔書」が出されるまでの間、親しまれてきました。旧暦では月日は、月の満ち欠けによる太陰暦で定めていました。(新月の日が毎月1日になります)この寒露の初候における旬の食べ物は、10月が産卵期の『ししゃも』です。漢字で『柳葉魚』と書くのは、柳の葉がししゃもになったというアイヌの伝説からだそうです。巷で出回っているのは樺太ししゃもで、ここで云うのは、本ししゃもです。会員の皆様も、今晚の夕餉(ゆうげ)に奥様に本ししゃもをご用意して頂いたらどうですか。

### 委員会・同好会報告

#### 長坂邦雄R財団委員長

インドでのポリオワクチン投与活動の日程が決まりました。【Aコース】2月15日～21日の7泊8日、【Bコース】2月15日～18日の3泊4日です。詳細は皆様宛にFAXさせていただいています。10月15日(月)までにご返答頂けるよう、よろしくお願いいたします。

### バナー交換

カナダ・カムループスノースRCのアラン・ドッドさんとバナー交換をしました。



### ニコボックス

松井文一郎ニコボックス委員

- ・本日は中村さんにお世話になります。 長瀬憲八郎さん
- ・RI中村靖治さんをお迎えて。 松波 恒彦さん
- ・中村先生、ようこそおいで下さいました。どうぞよろしくお願ひします。 天野 正明さん
- ・10月15日は誕生日です。 梅村 昌孝さん
- ・競馬が当たったので！ 宗宮 信賢さん
- ・やっと、さわやかな秋日和になりました。山中教授、ノーベル賞うれしくなります。 高木 元明さん
- ・関谷さん、昨日は色々とお世話になりました。皆様も毛虫には注意して下さい。手がクリームパン状態になってしまいました。 堀 慎治さん
- ・昨日は関谷さんにお世話になりました。空気の読めない我々をお許しください。 鈴木 淑久さん
- ・関谷さん、昨日は大変お世話になり、ありがとうございます。妻がとても喜んでました。 湯澤 勇生さん
- ・山中教授のノーベル賞受賞を嬉しく思います。 湯澤 信雄さん

### 出席報告

松井文一郎出席委員

会員65名 出席49名 (出席計算人数50名)

出席率 89.1% 10月 2日は補填により 87.7%

### 幹事報告

平野好道幹事

- ・本日13:50よりヒルトン名古屋4階「竹園の間」にて2010-11年度RI研修リーダー中村靖治さんとの懇談会を行います。
- ・10月18日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「つるの間」にて推薦小委員会を行います。

### 卓話 2010-11年度国際ロータリー・研修リーダー 中村靖治さん

#### 善き仲間と共に

皆様はいろいろな組合や組織に入っていると思いますが、ロータリーの組織は他とは違って一種独特な雰囲気があると思います。皆さんは企業もしくは専門職務の中でリーダーシップを発揮されており、縦のリーダーシップの中で昼の生活を営んでいらっしゃいます。しかしロータリーでは縦ではなく横のリーダーシップが必要とされます。全てをうまく運ぶためには、相手のことを慮って思いやりの精神を持たなくてはなりません。ここが他の組織と違うところだと思います。ロータリーは「超我の奉仕」を第一標語とし、100年を超えて唱えて来ております。Service Above Self(我を超えた思い)。このロータリーの精神は、非常に思いやりの精神に則ったものであると思います。

1905年、あの混乱しているアメリカの経済の中でロータリーは誕生致しました。洋服商、鉱山技師、石炭商、そして弁護士のパール・ハリス。彼らはなぜロータリーを作ったのでしょうか。アメリカン・ドリームを目指す非常に殺伐とした社会の中で、信頼できる仲間を作



りたかったため、その提案をされたそうです。作った動機は「寂しいから」、ただそれだけです。ハリスは78歳までロータリアンとして活躍されました。彼の有名な言葉に「ロータリーには寛容の精神が必要である。」というのがあります。宗教、人種、諸々の異なる言動に対する考え方です。それから107年たった現代、田中作治RI会長が30年ぶりに日本から誕生しました。私は会長とは家が非常に近く、そのお付き合いの中で、会長が日本各地に行かれる際には私が運転を買って出ております。田中RI会長は新潟のご出身で、丁稚奉公から会社を東証二部に上場させ、そして現在はRI会長として活躍されています。趣味の欄にはいつも「ロータリー」と書かれています。何よりも目指していることは、出身地である八潮の街を世界一きれいにしようという事で、自宅100mをご自分の清掃範囲と決めてゴミを拾っていらっしゃいます。一年間で約100kgにもなるそうです。昨年7月1日に住民票を持ってロータリーの本部であるシカゴのエバンストンに移り住まれておられますが、日本に帰って来たときにはやはりゴミを拾われています。今、八潮の街では58団体がその呼びかけに応じてゴミを拾っているということです。田中RI会長は先日までアフリカに行ってみえました。日本にお帰りになって日韓親善会議に出席され、すぐまたブラジルや上海に行き、現在はモンゴルに行っておられます。今ロータリーは200の国および地域に広がっており、エレクトのうちに100ヶ国をまわり、会長になって残り100ヶ国をまわられるそうです。2年間本当に忙しくされています。今度日本にお帰りになるときには11月に開催されるロータリー研究会に出席になられます。

今、RIが皆さんに何をさせていただきたいかということ、クラブのサポートと強化です。人を増やし強くしようという意味の「増強」という言葉がありますが、田中RI会長はむやみやたらな増強はしないでいただきたいとおっしゃっています。増やして強くするのではなく、強くしてから増やしてください。クラブが元気で強くなれば自然と会員は増えるものですし、クラブの活性化を図らないで人を増やしても、その人は辞めてしまうでしょう。ロータリーとは何をするとところかをきちんと理解し、そして相手にも理解いただいてください。

クラブ計画書を送っていただき、拝見させていただきました。内容は大変素晴らしいものでした。一番良かったのは各委員会が良かったところと悪かったところを記載している点でした。入会の手続きがきちんとしている点も素晴らしいと思いました。名古屋瑞穂RCは素晴らしいクラブです。65名という人数は愛知ではそれほど多い方ではありませんが、クラブは基本的に50名いれば活動ができるといわれていますので、是非頑張ってくださいと思います。

ある人が「あなたは一日の大切な時間のほとんどをロータリーという組織の活動に費やし、少なくともお金を奉仕活動に協力されています。何か楽しいことでもありますか。」と尋ねたそうです。ここにいる皆さんも、なぜロータリーに入っているのかと聞かれたことがあるのではないのでしょうか。前年度RI会長のカルヤンさんはこの質問に対し、「確かに忙しく、時間を費やす機会が多々あります。しかし信頼できる仲間とともに社会を良くしようとする運動は自らを高めることができ、奉仕する喜びと感動を得ることができます。ロータリーで活動しているうちに多くの素晴らしい出会いを体験し、生涯を通じて善き仲間として知り合うことができます。」と答えられたそうです。行政組織でも営利団体でもない善意の団体がなぜ100年の歴史を超えて生き続けるのか。その秘密は職業を通じて他者にサービスするロータリー精神にあるということです。ロータリーには良いところもあれば、悪いところもあるかもしれませんが、けれども100年を通じてこの組織が生き続けるということは、やはりロータリアンで良かったと思える点が、欠点よりたくさんあるのだと私は理解致します。世界のロータリー会員数は123万人です。世界単位では増えていますが日本では減少しており、7月末の時点で8万7,000人です。今後日本の会員数がどうなるか。5万人になるのか10万人になるのかはこれからの皆さんのロータリー活動にかかっています。

皆様へ田中RI会長からのメッセージがあります。ロータリー活動を続けるには三つの大切なことがあります。それは「忍耐、寛容、謙虚さ」です。これを覚えておいていただけたらと思います。そして会長や幹事から何か頼まれた時、できない理由を探すよりできる方法を探す習慣を身につけようということです。その習慣は皆さんの会社で

も役立つはずですよ。

2013年にリスボン国際大会が開催されます。ポルトガルは現在大変な状況になっていると聞きますが私も推進委員を務めます。どうぞお時間と関心のある方は、そこで多くの友人と出会い、それを通じて国際理解や親善平和を語り合しましょう。リスボン国際大会に是非参加してください。ロータリーという組織を通じた出会い、これがロータリーの醍醐味ではないでしょうか。是非皆さんで友情を育んでいただきたいと思います。

## 国際ロータリーニュース

### グローバル補助金で小児心臓外科手術を支援

インドとパキスタンでは、ロータリー財団のグローバル補助金を利用して、先天性心臓疾患のある子どもたちへの手術を提供する「Heart to Heart」プロジェクトが行われています。54,000米ドルをかけたこのプロジェクトは、財団の未来の夢における重点分野、「母子の健康」を支えるものです。

このプロジェクトは、第3240地区(インド)と第5340地区(米国)のクラブが協力し、手術費用が払えない貧しい家庭の、心臓疾患を抱える子どもたちのための資金を集め、手術を行いました。

第3240地区のバスター・ガバナーであるアショク・クマール・アガルワルさん(インファル・ロータリー・クラブ)は、自身のガバナー任期中に22人の子どもたちの手術を支援しました。その中の一人、7歳のリシカ君の物語は、インドで作品賞を受賞した映画、「Heart to Heart」の題材となりました。

アガルワルさんは、家族が貧しく手術を受けられない子どもたちのためにこのプロジェクトを実施することを決め、「最終的には100人の子どもたちに手術を提供すること」を目標に、子どもたちの健康や生活の質の向上を目指しています。また、インドとパキスタンの関係改善の一助となることも期待しています。

プロジェクトの援助国側提唱者である第5340地区のピスター・ロータリー・クラブ(米国カリフォルニア州)の元会長であるマツ・クマラさんは、このプロジェクトについて、「大きなニーズを抱えた子どもたちを助けるだけでなく、地域社会が一体になった」と振り返ります。同クラブでは、会員がインドに旅したことがきっかけで、ほかにもインドで医療関係のプロジェクトに携わってきました。同じくこのクラブの会員でバスター・ガバナーのラリー・サンドラムさんも、プロジェクトの推進と実施に携わり、第5340地区のほかの5つのクラブが子どもたちへの手術に資金を提供しました。

2010年、第3240地区は韓国の第3630地区と協力し、財団から7万米ドルの補助金を受領して、46人の子どもに手術を提供しました。その後も追加の資金が集められ、最終的にその年、56名の子どもがプロジェクトの恩恵を受けました。

アガルワルさんは、この2度目の補助金とその他の資金や寄付によって、100名の子どもへの手術を提供するという目標が達成できると期待しています。「このプロジェクトは地区内で大変大きな関心を集め、ガバナー審議会もできるだけ多くの子どもが恩恵を受けられるようにと、プロジェクトの継続を望んでいます」



手術後、父親に抱かれるモンマちゃん(パキスタンにて)。写真提供: Ashok Kumar Agarwal/Rotary Club of Tagore Land

## 例会のご案内

### ■今週の卓話 10月18日(木)

卓話者: 米山学友 金秋延さん

テーマ: 私の留学生活

### ■10月25日(木) 地区大会振替により休会

### ■次々週行事 10月28日(日) 地区大会

場所: ウェスティンナゴヤキャッスル

時間: 12:30~